

令和版 自分ごと（自分の事）として学ぶ子供

1 学習指導要領が求めるもの

学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）では、学校に求めることを次のように示しています。

一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること

そして、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力や各教科等の目標や内容を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を進めることや、教育活動の質的向上及び学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることなどを重視しています。

このように、学習指導要領が示す育成を目指す資質・能力を的確に捉えて、教育課程を工夫したり学習の質的向上を図ったりしながら、自他を尊重する精神を養い、学びを人生や社会と関係付けて、「生きる力」を育むことが大切です。

2 「誰一人取り残さない授業づくり」の推進

静岡県では、これまで学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、教師用指導資料を通して、大切にしたい教育理念や授業づくりの方向性を示してきました。その根底に貫かれてきたのは「子供理解」と「教材研究」を基盤としたカリキュラム・マネジメントです。平成 31 年 3 月に発信した「自分ごと（自分の事）として学ぶ子供」では、これまでの教師用指導資料の理念を大切にしながら、子供を主体とした授業づくりの必要性について伝えました。各学校においては、子供同士が関わり合いながら考えを深める授業や、子供が持っている資質や能力を引き出し高める授業など、学習指導要領に基づく授業実践が行われてきました。また、子供が問いや考えを持ち、協働や対話を通して学びを深める学習など、教師用指導資料に基づく授業づくりが推進されてきました。このような取組により、全国学力・学習状況調査における「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」等の質問に対して、肯定的に回答する子供が増加傾向にあることは、先生方の取組の成果と言えます。これは協働と対話の繰り返しによって、子供たちの学びが深まっている証です。

今後はこれまでの取組を大切にしながら、誰もが安心して学べる学習環境の中で、より一層子供の実態や教材の特性を生かし、個に焦点を当てた指導や自ら学習を調整する力を育む子供主体の授業づくりを進める必要があります。さらに、GIGA スクール構想による ICT 環境の整備が進み、1 人 1 台端末を効果的に活用した子供たち一人一人の特性や発達の段階等に応じた授業づくりが求められています。そのため、子供の興味・関心、多様な見方や考え方を把握する等の「子供理解」に努めることがこれまで以上に大切です。

これらを踏まえて、子供主体で誰一人取り残さない授業づくりを推進していきます。

3 これからの授業づくりに向けて ～「自分ごと（自分の事）として学ぶ子供」～

静岡県の子供が、主体的に学ぶ姿勢を養い、「生きる力」を育んでいくためには、学習の内容や活動を自分の事として捉え、人生や社会、生活等と関係付けたり他者と関わったりしながら学びを深めていく「自分ごと（自分の事）としての学び」が大切になります。

教師は、子供の表れに応じた指導や支援を行い、子供が学びを自分で調整する「個別最適な学び」と、探究的な学習や体験活動等を通じて多様な他者と協働や対話をしながら資質・能力を育成する「協働的な学び」の一体的な充実を図る必要があります。

「自分ごと（自分の事）としての学び」では、例えば次のような子供の姿が考えられます。

- * 興味・関心を持ち、既有的資質・能力や学習に関わる経験などを働かせながら、学びの対象に対して自分なりの問いを持ったり考えを深めたりしている。
- * 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を繰り返しながら様々な考えに触れ、自らの問いや考えを広げたり深めたりしている。
- * 自らが学習方法を計画したり、決定したり、振り返ったりしながら学んだことと人生や社会、生活等とのつながりに気付き、新たな問いや考えを持っている。

教師は、「肯定的な子供観」※¹を持ち、「子供にどう教えるのか」から、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」など、子供の学びの姿を捉えどう指導につなげるのかという「学び手の視点で授業をつくる」ことが求められています。

以下に、授業づくりにおいて、教師が心掛けたいことを示します。

- 育成を目指す資質・能力を的確に捉えて単元や題材を構想する
- 子供の思考過程を生かして授業を展開する
- 子供の資質・能力の伸長を多様な方法で見取り子供と共有する

このような心掛けは、子供が学びの実感※²を積み重ね、自分ごと（自分の事）として学ぶために、大変重要になります。

各学校において、学習指導要領の趣旨や静岡県の授業づくりの方向性等を踏まえながら、授業改善が推進され、子供一人一人の学びが充実することを望みます。

※1 「子供には、知的好奇心や思いやりの心があり、新たなものを創り出したり目的を実現したりする能力が潜在している。」「子供は、自分の中にある能力を発揮したいと考えている。」など、温かで肯定的に子供を捉えようとする姿勢。

※2 「なぜだろう」「こうしたらどうだろう」「できそうだ」「分かってきた」「納得した」「自分の言葉で説明できそうだ」「もっとやってみたい」といった、学びの過程でわき上がってくる手応えのこと。

「自分ごと（自分の事）としての学び」は、子供が「問いや考え」を「個別最適な学び」と「協働的な学び」を繰り返す中で再構成し、その過程で目指す資質・能力を育んでいく「子供が主体となる学習」を指しています。

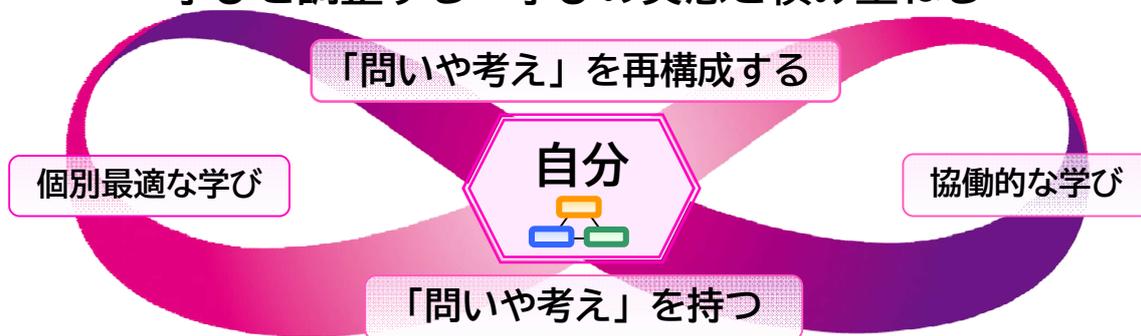
「問いや考え」を持つ

子供が学びの対象や事象との関わりの中で興味・関心等を持ち、予想したことが結果と異なった時、経験や他者との違いに気付いた時、「自分もやってみたい」「こんな表現をしたい」等の思いを持った時などに、問いや考えを持ちます。

「問いや考え」を再構成する

子供が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を繰り返す中で、様々な知識や情報、自他の考えを整理しながら、新たな知識・技能を獲得したりつなげたりして、確かな考えを構築します。さらに、新たな問いや考えが生まれ、次の学びへとつなげていきます。

学びを調整する・学びの実感を積み重ねる



「自分ごと（自分の事）としての学び」を実現していくためには、「肯定的な子供観」に基づきながら「学び手の視点で授業をつくる」ことが大切です。以下、授業づくりにおいて教師が心掛けたいことを示します。

育成を目指す資質・能力を的確に捉えて単元や題材を構想する

例えば…

- ・子供の思考過程を子供の言葉や姿で具体的に想像し、学習を進める中で子供が持つ目標や思いを子供自身が実現していけるよう、単元や題材を構想する。
- ・資質・能力の着実な育成のために、子供が1人1台端末を自由な発想で活用できるよう、単元や題材を構想する。

子供の思考過程を生かして授業を展開する

例えば…

- ・日頃から子供理解に努め、子供の言葉や姿の背景にある考えや思い、願いなどを捉えて学習課題を設定するなど、子供主体の授業を展開する。
- ・子供が学習課題や学習活動を自ら選択したり、他者との関わりの中で学びを深めたりするなどの多様な学習活動を充実させ、子供の自発的で自律的な学習が促されるよう工夫する。

子供の資質・能力の伸長を多様な方法で見取り子供と共有する

例えば…

- ・子供が学びを調整したり、学習したことの意義や価値を実感につなげたりするために、子供が振り返ったことや教師が評価したことなどを子供と共有する。
- ・子供の学習記録、成果物の記録などの教育データについて、ICTを活用して蓄積・分析・利活用し、きめ細かな指導と評価につなげていく。

令和版 自分ごと（自分の事）として学ぶ子供



自分ごと（自分の事）として学ぶ子供 目録
 「自分ごと（自分の事）としての学び」は、子供が「問いや考え」を「個別最適な学び」と「協働的な学び」を繰り返す中で再構成し、その過程で目指す資質・能力を育てていく「子供が主体となる学習」を指しています。

「問いや考え」を再構成する
 子供が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を繰り返す中で、様々な知識や情報、自他の考えを整理しながら、新たな知識・技能を獲得したりつなげたりして、確かな考えを構築します。さらに、新たな問いや考えが生まれ、次の学びへとつなげていきます。

「問いや考え」を持つ
 子供が学びの対象や事象との関わりの中で興味・関心等を持ち、予想したことが結果と異なった時、経験や他者との違いに気付いた時、「自分もやってみよう」「こんな表現をしたい」等の思いを持った時などに、問いや考えを持ちます。

肯定的な子供観 目録
 「子供には、知的好奇心や思いやりの心があり、新たなものを創り出したり目的を実現したりする能力が潜在している。」「子供は、自分の中にある能力を発揮したいと考えている。」など、温かみを持って子供を捉えようとする姿勢。



誰一人取り残さない教育の実現

ふじのくに「有徳の人」づくり大綱 目録
 ～誰一人取り残さない教育の実現に向けて～
 「この地に暮らす誰もが人生の夢を実現し、幸せを実感するための基盤となる『誰一人取り残さない教育の実現』に全県を挙げて取り組んでいく」

育成を目指す資質・能力を的確に捉えて単元や題材を構想する
 ・子供の思考過程を子供の言葉や姿で具体的に想像し、学習を進める中で子供が持つ目標や思いを子供自身が実現していけるよう、単元や題材を構想する。
 ・資質・能力の着実な育成のために、子供が1人1台端末を自由な発想で活用できるよう、単元や題材を構想する。

子供の思考過程を生かして授業を展開する
 ・日頃から子供理解に努め、子供の言葉や姿の背景にある考えや思い、願いなどを捉えて学習課題を設定するなど、子供主体の授業を展開する。
 ・子供が学習課題や学習活動を自ら選択したり、他者との関わりの中で学びを深めたりするなどの多様な学習活動を充実させ、子供の自発的で自律的な学習が促されるよう工夫する。

子供の資質・能力の伸長を多様な方法で見取り子供と共有する
 ・子供が学びを調整したり、学習したことの意義や価値を実感につなげたりするために、子供が振り返ったことや教師が評価したことなどを子供と共有する。
 ・子供の学習記録、成果物の記録などの教育データについて、ICTを活用して蓄積・分析・利活用し、きめ細かな指導と評価につなげていく。

育成を目指す資質・能力を的確に捉えて単元や題材を構想する
 子供の思考過程を生かして授業を展開する
 子供の資質・能力の伸長を多様な方法で見取り子供と共有する

**カリキュラム・マネジメント
 子供理解 教材研究
 安心して学べる学習環境**

目録 このマークがある項目は、関連する本資料の本文や各種資料等とリンクしています。